



SHOKEI



SHOKEI

2016
506

尚網新時代へのスタート「中学校・高等学校校舎棟完成」



中学校／球技大会

尚網新時代へのスタート 「中学校・高等学校校舎棟完成」

輝き
大学バレー部

教職員工ッセイ 梅の花
中学校・高等学校教員／野澤初恵

卒業生コラム はばたき
2006年 尚網学院高等学校 卒業
理学療法士(仙台リハビリテーション病院)
／四電紗有里さん

情報掲示板 学校行事報告、同窓会コーナー拡大版

vol.
506

2016年(平成28年)
2月10日発行

尚網学院大学 オープンキャンパスの案内 高校1・2年生のためのOPEN CAMPUS ～「楽しく」進路を考える1日～

3月12日(土) 12:30～16:00

【実施企画】

聖なる歌声!

「オープニングコンサート」

尚網に触れる最初の1歩!

「SHOKEIまるごと紹介」

学生スタッフ主催!

「高校生SHOKEIクイズ」

先生になんでも質問!

「個別相談&学科紹介ブース」

SHOKEIライフがわかる!

「先輩とのキャンパスツアー&プチ懇談」

自分の興味を広げる!

「まなび創造ワークショップ」

コンプリートをめざせ!

「スタンプラリー」



お申込み・お問合せ 大学入試広報課
Mail ▶koho@shokei.ac.jp
TEL▶022-381-3311 / FAX▶022-381-3325

Graduation LIVE 2016!!

(三校合同卒業ライブ)

軽音楽部

～live in enn2nd vol.9～

例年行っている、合同卒業ライブが今年も行われます。
高校3年生の旅立ちを、他校との熱い演奏でお祝いします。
是非お越しください。

日 時	2016年3月23日(水) (詳細な日時等は後ほど高校HPに掲載予定ですが、 内容、日時、時間は予告なく変更される場合があります。)
チケット	¥200 (Drink ¥300)
場 所	LIVE HOUSE enn2nd 〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目7-11 仙台ストックマンビル4F (地下鉄広瀬通駅 東1出口より徒歩1分)
お問合せ	尚網学院高等学校 軽音楽部顧問 平澤 和昭 TEL:022-264-5881



建設整備事業募金のご報告

■中学校・高等学校校舎
■大学礼拝堂



皆様のご協力に
心より感謝申し上げます。

募金状況報告(目標額2億円)
¥82,693,953.(目標額の41.3%) 2015年
※12月31日現在
(詳細については次号以降ご報告予定です。)

お問合せ (学)尚網学院 法人事務局募金事務局
TEL 022-381-3471 ※月～金 9時～17時
Email ▶bokin@shokei.ac.jp URL ▶http://ap.shokei.jp/

ハワイアンステンシル講座のご案内

尚網学院大学 生涯学習センター



ハワイアンステンシルは、ハワイに咲く色
鮮やかな草花や、青い海に生息する生き物等
をモチーフにした「型染め」の事を言います。
今回は、ハワイアンステンシル coco aloha
公認講師で卒業生の近藤京子さんをお迎え
してトートバッグを作ります。
皆様のご参加をお待ちしております。

制作品:デニムトートBag (19×30×14) 日時:3月9日(水) 13:30～
場 所:〒981-1224名取市増田1-1-15 尚網学院大学生涯学習センター
参加費:2000円(定員20名先着順となります)
申込方法:FAX・郵便・Eメールにて氏名・住所・電話番号明記の上
お申し込みください。
renkei@shokei.ac.jp / FAX 022-381-1491

問合せ▶尚網学院大学生涯学習センター(上記住所) TEL.022-381-1490

おくやみ

佐藤 亨様(85歳) (大学・こども学科教員 佐藤淳一様ご尊父) 12月27日逝去されました	宮腰 文子様(96歳) (昭和14年本科卒) 1月21日逝去されました
東海林 新吾様(86歳) (大学・健康栄養学科教員 赤坂和昭様ご岳父) 1月8日逝去されました	山崎 貞子様(88歳) (大学・子ども学科教員 安藤正樹様ご岳母) 1月26日逝去されました
佐藤 昭様(89歳) (元法人事務局長・事務局長 佐藤正人様ご尊父) 1月20日逝去されました	

編集委員

編集後記 徒然日記

今年度最後の尚網誌の発行となりました。2015年度1番の出来事は、なんといっても中高新校舎が完成したことです。テレビCMも流れ、情報誌やマスコミで尚網学院が大きく取り上げられ、関心を集めました。それと同時に旧校舎は、解体工事に入り思い出の建物がなくなり一抹の寂しさを感じます。そんな時、「私たちがgoodである時、世界ははじめて私たちの存在によって、良き所となるのです。」というズエル先生の言葉が勇気づけてくれます。(T・S)

尚網学院
後援会会員に
加入の
お願い

尚網学院後援会は、「尚網誌の発行」と「学院への援助」を行っている支援団体です。学院を応援して下さる方ならどなたでもご加入いただけますので、ご協力の程お願い申し上げます。

学院への援助と共に
尚網誌が届きます。
(年6冊 5回発送)

5月 7月 9月 12月 2月

※9月のみ通常号・入募集特集号同時発行

郵便振込口座NO

年会費 2,000円/年 納入方法 02230-3-2116

数年分をまとめてのお申し込みも、お待ちしております。手数料無料の振込用紙がございますのでご利用ください。

※尚網誌購読中の方で、氏名・住所等変更された場合は、ご連絡ください。
※記事を読んでの感想・懐かしい思い出のお写真、楽しい情報等もお待ちしております。
お手紙・おハガキ・TEL・FAX・E-mailにてご連絡ください。

尚網学院後援会
事務局

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
TEL022-381-3342 FAX022-381-3467
U R L: http://ap.shokei.jp/dk/
E-mail: koenkai@shokei.ac.jp

2013年度冬より3年計画で進めてきた建設計画の内、新校舎が完成しました。第3回目は、校舎2F~4Fをご案内します。

尚綱新時代へのスタート!

中学校・高等学校 校舎棟完成



3F Call室で英語の授業



新校舎2階から4階までの風景

中学校・高等学校 事務長 菊池 雅人

●新校舎の南側各階からは、都会には珍らしい青葉山の大自然が一望に見渡せる。この部分に位置するのが、普通教室で、2階は3年生、3階2年生、4階は1年生とそれぞれ8教室が配置されている。

礼拝堂棟から教室棟への橋渡しの構造の接続棟の2階には、旧校舎では三つもあった職員室が一つにまとめられた。日々の様々な情報の共有など教員間の意思疎通もより一層良くなっているようである。特徴的なのは、職員室の北側にロビー風の空間があり、そこでは生徒と教員が気安く会話できるスペースが用意されている。



C 3F オープンスペース



B 2F職員室入口



A 普通教室

教室棟の中央の吹き抜け部分には進路関係の部屋が集中しており資料コーナー・相談室・指導室と専用の学習室も用意されている。体育館が見える北側には、中講義室、地学・地理室、物理室などがある。

3階北側には大会議室、パソコン関係教室と英語の授業などで使用するCALL室が並んでいる。また、中央の吹き抜け空間にはオープンスペースを設け、大学のライニングコモンズと似たような作りとした。一人で学習に励むのもいいし、壁に映像を投影し、PBLの学習成果を発表してもいい、使い方は工夫次第



D 3F第1PC室での授業



G 4F第1音楽室



F 2F進路資料室



E 2F資料コーナー



である。またこの階には、中学校および高等学校の生徒会室があり、活発な活動の拠点となっている。なお接続棟部分は第二音楽室で大きなガラス窓を通して激橋が目の前で、新校舎の中で一番の景色が味わえる。

4階北側には、第二音楽室、書道室、被服室がある。吹き抜け部分は表現実習室で、二面がリフレックスミラー（表面が柔らかい）のため、演劇部、ダンス部、チア部等の利用にはびつたりで利用頻度が高い。



H 4F表現実習室



生徒用の各階トイレは、男女それぞれ青と赤のイメージで配色されている。特徴は、内部の真ん中にアイランド型の洗面台があり、ちよとした生徒のコミュニケーションの場ともなっている。入り口はオープンタイプで、すぐ脇には身だしなみを整える大きな鏡が用意されている。綺麗なトイレは学校のイメージを決定づけることもある。トイレは、新校舎が大切に使われているかどうかのバロメータにもなるのである。

さて、3回シリーズで新校舎の紹介をしてきた。工程どおりなら、ちょうど1年後には3年計画の工事が最終段階を迎え、きっと体育館やグラウンドについての紹介ができるだろう。いよいよこれから体育館の工事が本格化していく。



I 洗面所

I 男子トイレ



J 女子トイレ

J アイランド型洗面台

新校舎になって

1年 太田 綾乃

夏休みが終わり、新校舎での生活が始まりました。新校舎の内装には白色や青色が主に使われていて清潔なイメージを受けました。また、吹き抜けや大きな窓から旧校舎よりも開放感のある作りになってとても良い雰囲気を感じました。昇降口からの図書館には個々で勉強や読書に集中出来るスペースがあり、テスト前などには自習していく人たちが増えたように思います。

新しい礼拝堂は広くシンプルなデザインでステンドグラスから光が差し込んでとても良い雰囲気です。礼拝を受けています。旧礼拝堂と比べ設備も完備されているため、これからの尚綱祭等の行事が今から待ち遠しく感じます。

3年 島貫 聡

新校舎に移ってから約4ヶ月経ち、まだ慣れない部分もありますが授業や部活動などの新たな活動が行われています。

元々、この尚綱の土地は伊達家の姫である智恵姫が住んでいた場所にミッドが尚綱の前身である私塾を開き現在に至ります。

由緒ある土地の上に、激動の時代にも負けずキリスト教の教えを守った人々が尚綱の基礎になっているのだと思います。私たち3年生はもうすぐ卒業ですが、新校舎で先輩たちが、この恵まれた土地で新しい尚綱の歴史を築いてほしいと思います。

理学療法士(仙台リハビリテーション病院)

四竈 紗有里さん

2006年 尚綱学院高等学校 卒業

〔卒業生コラム〕

habataki

はばたき

vol.40

高校の部活で感じた、医療職の大切さ。
何事も最初から無理だと決めつけずに、
まずは始めてみよう！

現在の職業を選んだ理由と 仕事内容について

昔から人の役に立ちたいと思っており、介護職を希望していました。尚綱高校在学中はサッカー部に所属し、チームメイトが怪我をした際、何もできない自分が悔しく感じました。怪我をする前、した時に何か出来るようになりたいと思い、リハビリテーションを専門とする理学療法士を選びました。

現在の仕事内容は、病気や怪我で入院された患者様を評価し、身体機能の向上と能力の改善、社会復帰まで導くという事をしています。関節運動や、筋力強化練習、起立や歩行などの基本動作や日常生活動作の介助を行い、より回復できるよう、お手伝いをしています。

仕事上の印象的なエピソード

当院に入院した当初は車椅子生活で、歩行は全て私の介助で行っている患者様がいました。その方の希望は、歩いて自宅に帰る事でした。その患者様は運動麻痺を呈していて、自分が思うように歩けない状態が続きました。6か月間、毎日リハビリや自主トレーニングで歩行練習を行い、自分の力で歩く事が出来るようになりました。退院時に、笑顔で「歩けるようになって、本当に良かったです。」と言われた時にはとても嬉しく、リハビリのお手伝いが出来て良かったと思いました。

後輩へアドバイス

自分がやりたいと思う事は、無理だと思っても、始めてみる事が大事だと思います。私は自分が医療職に就くとは夢にも思っていませんでしたが、始めてみたら、毎日新たな発見があり、一生続けたいと思う仕事になりました。何気ないことでも目を通すことで、何かしらの興味を持ち、そこから繋がるものが絶対にあると思います。



症例カンファレンス



関節可動域訓練

2006年3月	尚綱学院高等学校	卒業
2009年3月	医療系専門学校	卒業
2009年4月	理学療法士として 仙台リハビリテーション病院	勤務 現在に至る

輝き

Vol.5

大学バレー部



私達バレー部は、
尚綱学院大学バレーボール部の identity を追求し、
大学日本一になることを目標に活動しています。

部訓は、
「患難・忍耐・練達・希望」



4年間を振り返って、苦しい事も辛い事も優勝して嬉しかった事もたくさん経験しました。特に3年次、4年次は特別な思い出があります。

3年次は春リーグ終了後にセッターとしてコートに立ち、初めてのポジションでなかなか上手いかず、先輩達にたくさん助けてもらいました。夏頃からどんどんチームが強くなっていき、東北のタイトルを全て取ることが出来ました。また全日本インカレでは、日本一という目標の手の届くところまでいきました。

その先輩達が卒業し、そこに1年生が加わって新体制で始まったチームは、なかなか成績を残せませんでした。最後の全日本インカレでは青山学院大学とベスト8をかけて全力で戦いました。この1年間後輩達と頑張ってきた成果だと思います。

私は卒業後、先輩と静岡県にあるブレス浜松でバレーボールを続けます。卒業したリベロの佐藤滯さんは日の丸を背負って戦っています。私も負けじと高い目標を持って頑張ります。後輩達もさらなる努力を続け今年以上に頑張りたいと思います。

バレーボール部主将 4年 菅井 美貴

「かけがえのない存在」

15年間一緒に暮した猫を亡くした。「8月7日9時に迎えにくるから」と約束したその日だった。

私はモンタナ研修引率のため猫を動物病院に16日間預けた。帰国した翌朝、迎えに行こうと家を出る間に知らせがあり、駆けつけたが間に合わなかった。急性心不全だった。

猫は元気で病院スタッフになついていたそう。7日朝、キャリーバックを見た時、「帰れる」ことを察知したように反応したとか。食事をして排泄して9時10分前にキャリーバックに移そうとした時に倒れたとのこと。「動物にはカレンダーも時計も無いのに、人間がとうの昔に失ってしまった力

があるのかも知れません。迎えに来るのが分かったのでしょう。」医師の言葉に悲しみが込み上げた。

夏休み明けの終礼で猫の死を伝えた。そして「命を大切にしよう。子どもは親にとってかけがえのない存在だから」と語った。静かに耳を傾ける生徒達に励まされて私は日常生活に戻ることができた。

あれから5ヶ月。時折、猫砂を掻く音がしたような気がする。足元に纏わりつく感覚がある。そんな時は「守ってね! 卒業まで…」と声をかける。

教職員エッセイ vol.40

梅の花

中学校・高等学校 教員

野澤 初恵



情報 掲示板

各学校からの
お知らせ

2015年を締めくくり
気持ちも新たに2016年へ
イベントも多彩です

幼稚園

11月11日(水)

収穫感謝礼拝



大学礼拝堂の窓から差し込む光が、祭壇に飾られた、果物や野菜そして子ども達、全ての成長を祝うかの様な暖かな空気な中、収穫感謝礼拝が行われました。

春には緊張していた年少も、お兄さんお姉さんになった年中も、幼稚園を見守る年長も、堂々とした姿で讃美歌を披露してくれ、保護者として喜びを感じました。

礼拝終了後はパイオルガンのミニコンサートが開かれ、各学年が色んな感情で楽しんだ様です。退場する時、収穫物を持ち満面の笑みで退場して行く子ども達キラキラと輝いて見え印象的でした。

(保護者 赤岩 美雪)

12月15日(火)・17日(木) クリスマス礼拝



12月15日からの3日間、クリスマス礼拝を行いました。年中・年長組がそれぞれの役になりきり、歌やセリフの練習する姿に、年少組も憧れをもち「私力プリエルになりたいの」と天使の羽を作った遊びクリスマス礼拝への気持ちを膨らませていました。

年中・年長組は、一人ひとりそれぞれに自信をもって演じ、年少組も吊り人形劇を見て、礼拝を守りイエスの誕生を喜び合うことができました。年少組はクリスマスパーティーも行い、保護者の方が作ったおいしいお料理に囲まれ、楽しい時間を過ごしました。3学期もイエス様から愛され守られていることを感じ、元気に過ごしてほしいと思います。

(幼稚園教員 澤口 美咲)

中学校

1月22日(金)

球技大会



中学校の冬の恒例行事「球技大会」が今年度も1月22日に行われました。これは3年生の先輩方と一緒に最後の行事なので、私たち生徒会新執行部もみんなの意見を必死でまとめました。話し合いがなかなか進まない時期もありましたが、徐々にまとめることができました。

そして、当日には先輩方を含む中学校のみんなが楽しく、バスケットボール・障害物リレー・O×クイズに参加してくれました。とても嬉しかったです。

来年度の球技大会もみんなの心に残るものになってほしいと思います。

(2年 小山内 優介)

中学校・高等学校

12月23日(水)

クリスマス礼拝



12月23日(水)に、中高のクリスマス礼拝がおこなわれました。今回は、クリスマスメッセージを宗教主任の田所義郎先生から頂いた後に、ページェント(キリストの降誕劇)を行い、最後に全員でハレルヤを歌って神様を賛美しました。メッセージで語られたクリスマスの意味をかみしめ、新しい道へと歩み出す勇気がわいてくる、とても感謝なひと時でした。また、校内礼拝の後に行われた公開礼拝でも、多くの方々に足を運んでいただき、クリスマスの喜びを分かち合うことができました。

また、クリスマスは、全教職員



が何かしら裏方の仕事を担って奉仕する時もあり、みんなで大切にしている季節です。今年も多くの奉仕に支えられました。特に今回は、新校舎になって初めてのクリスマスでこれまでと勝手が違う分、準備が遅れることもあったのですが、PTA有志の方にもリッスを作っていたいたり、宗教部や中学2年生にアドベント奉仕をしてもらったりして無事当日を迎えることができました。一人ひとりの尊い働きに感謝するとともに、神様からの恵みが一人ひとりにもたらされますようお祈りしたいと思います。

(中宗教部主任 齊藤 直美)

高等学校

11月10日(火)・13日(金)

修学旅行 北海道

(特進コース)



特進の修学旅行は1年次の方面決定プレゼンから始まり、旅行後の報告プレゼンで終わる長期2年間のプロジェクトである。自分たちで旅行先と行程を決め、そして多くの発表の場をまとめる。自らが主体となつて動かなくてはならないと自覚できたか否かが、旅行自体の価値を左右する。今年度の行き先は「北海道」。事前の自主研の発表もまずまず。そして臨む修学旅行。担任からは「立派に行動し、純粋に楽しむ生徒たちの姿に感動した」と報告をもらった。移動距離も長く、思いもかけぬ事態もある中、各自無事に動いて有意義な研修ができたことをうれしく思う。私も行きたかったな。

(中高教員 神山 幹幸)

11月9日(月)・13日(金) 修学旅行 沖縄

(総進コース)



高校生活で一番の思い出だったと言える修学旅行を自分たちで作りに上げようと、11月9日から13日の行程で沖縄に向かいました。

今年度は戦後70年という節目の年でもあり、沖縄戦を通して平和を考える良い機会となりました。また、天気に恵まれ予定した全行程を恙無く実施することができ、沖縄の人々の心「いちやうばーちやうで」を知り、仙台とは違った自然や文化に触れ、充実した4泊5日の修学旅行となりました。※いちやうばーちやうでー一度会ったら皆兄弟の意味。

(修学旅行実行委員長 足立 夏波)

11月12日(木)

ココロ・カフェ in SHOKEI



11月12日(木)、高校1年1組、6組の「総合的な学習の時間」で、「ココロ・カフェ in SHOKEI」を開催されました。さまざまな障害を持つ当事者の方々と一緒にグループに分かれて話し合い、その後、話し合った内容を全体で共有しました。当事者の方々と同じテーブルに座って話をする貴重な機会となり、生徒たちはどうすれば誰かが暮らしやすい社会を築いていけるのかを真剣に考えました。ご参加いただいた当事者の皆様、仙台市の皆様のご協力に心から感謝いたします。

(中高教員 白津 祈恵子)

11月14日(土)

旧職員「中高新校舎を見学する会」



2015年11月14日(土)、旧教職員(旧教職員15、旧職員10)が新装なった中高校舎に集合した。大講義室にて、開会宣言、幹事代表挨拶、礼拝、校歌斉唱の後、学校関係者から挨拶を頂き、旧校舎の懐かしい思い出をDVDで楽しみ、礼拝堂に移動。引き続き、校舎完成までの経過報告、集合写真撮影の後、校舎見学に移った。第2部は、懐かしの「いわま亭」で懇親会。近況を報告しあい、一同、学校関係者の細大漏らさぬご協力に心から感謝、学院のますますの発展を祈りしながら、午後3時閉会した。

(幹事 穴戸 慶子、佐藤 眞理、三浦 律子、穴戸 温(文責))

11月14日(土)・15日(日)

演劇部・宮城県高等学校演劇コンクール中央大会 優秀賞



今回、私たち演劇部は「Butterfly's symphony」という作品で県中央大会にて優秀賞を頂き、東北大会に出場することとなりました。1人の人物を7人で演じ、かつ1人が5役程を演じ分け、照明、音響など各スタッフも工夫を重ねました。最初はやりたいたことに自分たちのスキルが届かずたくさん悩んだりもしました。しかし、みんなで見えたいものをつくることのできたのではないかと思っています。ご来場いただいた皆さんを含め、本当にたくさんの方々に感謝の気持ちで一杯です。有り難うございました！

(演劇部 佐藤 樹々)

大学

進路就職課・就職活動支援の取り組み



本学では就職活動を支援するため各種講座を用意しています。

実務中心のエクセル3・2級講座、フोटOSHOP講座のほか、就職試験に直結する公務員対策講座（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ）、教員対策講座、公務員保育士対策講座、一般就職適性検査（SPI）講座などです。受講料は大学が負担し、テキスト代のみで受講できます。このうちフोटOSHOP講座は地方創生先行型事業として名取市から補助を受けており、テキスト代も無料です。

すべての講座は1年次から受講可能ですので、卒業後の自己実現に向け積極的に活用してください。

（進路就職課長 中村節子）

環境構想学科 リユースプロジェクト



プロジェクトは、「生活環境演習」で実施している環境活動プロジェクトのひとつで、家でしまわれて、今は使われていない文房具を回収・リメイクし、必要としている子どもたちに届けることを目的としています。

11月12日から3週間、学生ロツカーと食堂に回収ボックスを設置したところ、ペンや色鉛筆、クレヨン、ノート、絵の具セットなど、学生・教職員の皆さんのたくさんの気持が集まりました。リメイクに協力してくれた環境活動サークルFROGSの皆さんと、一緒に、ひとつひとつきれいに仕上げていきました。リメイク作業、届け先の手配など、プロジェクトはまだ活動半ばですが、手作業を通して気持ちの環が広がったように感じました。文具とペンケースは、カンボジアスタディーツアーの参加者に持参していただく予定です。

（環境構想学科教員 渡邊千恵子）

12月12日（土）

子ども発達支援センター主催「講演会」



「障害者の日々の暮らしにふれる〜共に暮らし、共に育つ〜」と題した講演会が、年明け前の12月12日（土）に開催されました。障害児者の関係者、保育・教育者、学生など300名近くの人々が参加。甲府市内福祉作業所で働くダウン症者の玉井拓野さん、母親・眞理子さん、保育所時代担任の桜井ひろ子さんに話題提供していただき、障害があっても、「それがそのまま不幸につながるわけではない：仲間がいることで、日々の暮らしが豊かになり、夢だてて育つ：「みんな違うけど、みんな同じ」が共感され、共に育ちあえるなどの思いが伝わる機会となりました。保育・教育者を目指そうとしている学生にとっても有意義なひと時でした。

（子ども発達支援センター長 小松秀茂）

12月17日（木）

クリスマス礼拝



今年度のクリスマス礼拝は12月17日（木）に、午前中が表現文化・現代社会・環境構想・生活環境の各学科を対象として、午後は人間心理・子ども・健康栄養の各学科を対象として行われました。礼拝に先立ち、例年通りにカンボジアスタディーツアーの報告を今年の2月にツアーへ参加した柴澤さん（健康栄養2年）、増田さん（生活環境2年）が行ってくれました。礼拝での奨励は「すべての人を照らす、まことの光」と題して、宗教主任の田所先生にお話をいただきました。クリスマスツリーに込められた人々の想いやクリスマスの本当の意味など、改めて考えると

この春はばたいていく

尚綱学院卒業生のみなさんへ



学院長 佐々木公明

尚綱学院を卒業する生徒・学生の皆さん、そして保護者の皆さん、おめでとうございます。中学校、高等学校を卒業される皆さんは、新校舎での第1期卒業生ですね。慣れ親しんだ旧校舎の思い出も沢山あるでしょうが、最後の半年を新校舎で学んだ清々しさを卒業後も持ち続けてください。大学を卒業する諸君は、あの東日本大震災の次の年に入学し、まだまだ地域社会が混々とした時期でした。自ら進んで地域復興のためにボランティア活動をした心意気を卒業しても忘れないようにしてください。皆さんは尚綱学院に入学・進学した時から、キリスト教の愛について学び、特に「他者とともに」という生き方を目標にしました。だから、あなた達がこれから困難に直面する時も、神様は「あなたとともに」生きる他者がいるようにしてくれます。人と人との絆を信頼し、そのような人間社会を創る人を目指してください。尚綱学院で学んだことを誇りとして、皆さんがそれぞれの分野で思う存分羽ばたくことを期待して止みません。

大学院 心理学専攻

田中 美彩登

私は高校生のときから、ずっと心理学を学びスクールカウンセラーになるのが夢でした。学部生のころは、初めて習う心理学の講義がとても楽しかったです。スクールカウンセラーになるためには、大学院に行かなくてはいけないことを高校生の時から知っていたので、最初から院に進むつもりでいました。大学院では、自分の興味のある研究が出来る有意義な生活を送ることができました。無事にスクールカウンセラーになることができ、12月から現場で働かせてもらっています。大学院で得た知識を活かし、卒業後も頑張っていきたいと思っています。



大学 人間心理学科

川村 優果



私の大学生活は、3歳の頃から始めたバレエと大学での勉強との両立に尽きます。今年度はバレエコンクールの結果、スカラシップをいただき、人間心理学科の先生方のご理解のもと、アメリカへの短期留学が実現しました。そこでは様々なことを沢山学ぶことができ、一生の宝になりました。現在、バレエ講師のアシスタントとして、幼稚園と小学生のレッスンを担当しており、春からも専属バレエ講師として働きます。人間心理学科で学んだ他者理解、それに必要な傾聴力、教育学理論を最大限に活かし、子ども達一人一人の個性を尊重しその才能を伸ばしていきたいと思います。



高等学校3年

根元 かな子

私は合唱部に所属していたが、本番に間に合わせようと、テスト前の休みを返上して部活を行ったことがあった。なんとか歌は完成したものの、テストの点数が落ちてしまったことがとても悔しく、それ以降は「隙間の時間」を使い学習するようになった。その結果、成績が上がり、第一希望の大学に合格することもできた。

将来はウェブデザインの仕事に就きたい。妥協せずクライアントの希望にこたえることが求められる仕事だ。高校3年間の経験を生かし、工夫しながら何事にも手を抜かない姿勢を貫きたいと思う。



てもいい機会となりました。聖歌隊の演奏も礼拝に参加した学生達にはとても好評でした。礼拝後には佐藤淳一による「さやかに星はきらめき」の独唱。続いて「音楽と表現」「音楽III」履修学生総勢105名による「クリスマスフェスティバル」の演奏が披露されました。朝から寒い一日でしたが、礼拝堂の中は人の心の温かさに包まれ充実した時間となりました。尚、献金は後日カンボジアプロジェクトのために、そして近隣の施設の方々へ、宗教部が責任を持ってお送りします。

（大学宗教部長 佐藤淳一）

2015年度尚綱学院同窓会拡大版

会長挨拶



菊地 和子
広瀬川の
川辺に建つ
尚綱校舎は
全てが取り
壊され、風
景も様変わ
りをしてしま
いました。昨
年の5月に中
学校・高等学
校新校舎が
八幡に完成し
ました。新校
舎は新緑の
自然と見事に
融合し、品格
を装い、特に
襷橋から見
える礼拝堂の
十字架は眩し
いほどに輝い
ています。ま
さに尚綱新時
代がスタート
したのです。

同窓会は新校舎完成に伴い、図書室の書架一式と閲覧の机と椅子を寄贈いたしました。これも一重に同窓生の皆さまの募金へのご協力によるものです。感謝申し上げます。皆さまには是非とも新校舎を見学していただきたいと思えます。そして、尚綱新時代をこれから担う生徒たちの未来に心からエールを送ってください。見守ってください。

同窓会も心を新たにし、伝統を守りつつ、魅力ある、そして皆さまに参加していただけるような同窓会にして参ります。

新しい図書室に 寄せて



新校舎1階に図書室があります。中高生の昇降口の向かい側にあり、全生徒が毎日登下校で前を通る「若いエネルギー」に包まれた新しい図書室の誕生です。廊下側も緑の庭側も開放感のあるガラス張り、大変明るく集いやすい環境です。奥に入れば本に囲まれ一人の時間も十分に取れます。窓辺の席に座りながら「部屋棟が在ったあたりかな」と景色を見ながらつぶやく同窓生がいました。生徒の知の好奇心を満たす本を納める書架一式は同窓会からの寄附で揃えられました。新校舎の中にも目に見る形で同窓生の思いを残して下さった尚綱学院に改めて感謝致します。

(副会長 小島典子)

尚綱祭



7月18日(土)尚綱祭が行われました。同窓会は尚綱ガールズ&ボーイズ史として制服の展示、また創立からの校舎の写真の展示を行いました。またブゼル先生のリードオルガンで讃美歌を歌うという企画もありました。多くのお客様が立ち寄ってください、懐かしい制服や机の上にある讃美歌を手にとっておられました。学生時代に歌った讃美歌は年数経ても忘れているのではないかと思います。ブゼル先生のオルガンはとも小さくて、持ち運べるものです。先生はこれを各地に持って行き、伝道に使われたと言われています。旧校舎での最後の尚綱祭になりました。

(役員 熊谷史子)

尚志祭



10月17日(土)名取の尚綱学院大学キャンパスで尚志祭が行われました。よい天候に恵まれ、オーブン・セレモニーで色とりどりの風船が青空に飛んで行きました。同じキャンパスにある幼稚園でも多くの子どもたちや保護者のみなさんが集まっていました。

同窓会はエラ・オー・パトリックホームにフリースリンクを用意し、お客様をお待ちしました。ホームを見学に来る大学生もいました。尚綱創立当時の歴史が生きている建物です。中はきれいに修復され、実際に先生方が住んでいらした当時を思われます。オルガンが2台置いてありました。1台は小さなブゼル先生のオルガン、もう1台はリードオルガンです。どちらともよい音色です。リードオルガンには燭台もついており、時代を感じさせられます。建物とオルガンの音がしつくりマッチしていました。

(役員 熊谷史子)

新校舎見学



尚綱女学院高等学校第10回卒業3年5組のクラス会を昨年の10月に秋保温泉にて行いました。昭和33年3月卒業ということで「燦燦会」と名付け、この頃は2年に1回の割合で開いています。今回は母校を訪問する企画も取り入れられました。母校到着するや否や、全員高校生にタイムスリップ、すっかり生まれ変わった新校舎、外国にでも来ているような素敵な母校に感動・感動のひととき。参加者は大満足でした。ありがとうございました。

(S33年高校卒 遠藤和子)

むつみのくさり復刊第11号刊行



「まなびの窓に
てかたく
結べる
むつみの
くさり」は解ける時なし……

「むつみのくさり」は同窓生を結ぶくさりとして、また母校との絆を繋ぐ機関誌です。かねてより準備編集を進めておりました「むつみのくさり」復刊第11号を2015年12月17日に発刊致しました。ご多用の中原稿をお寄せ下さった皆様に心から御礼申し上げます。

お手に取りお読みになった方々もおいでのごと存じます(同窓会活動協力費を2013年より3年間お支払いいただいた方にはすでに配布済みです)。感想は如何でしたか。復刊第11号の大きなテーマは「尚綱新時代のスタート」です。内容を部ご紹介致します。

- 尚綱学院はいま・これから
- 同窓会活動
- 歴代同窓会会長からのメッセージ
- リレーエッセイ・校歌・学院歌に想う
- 時を超えてブゼル先生の思い出にふれる
- 広瀬校舎のおもいで



編集委員の皆さん

等の内容でお届けしています。題字と表紙の見返しは「おなんど」色に、写真を多く掲載し見やすくしました。「むつみのくさり」で同窓生の皆様のご活躍や学院の現状をお伝えすることは意義のあることと考えます。

学院は2008年に男女共学となり、同窓会にも男性が参加するようになり、新しい歴史がスタートしています。いま新たに一人ひとりが睦み合い、同窓会に多くの方が積極的に参加していただくことを願います。

なお、「むつみのくさり」復刊第11号の購入を希望される方は、同窓会事務局までご連絡下さい。1部1000円(140ページ)になります。(送料・振込手数料別途)販売期間は3月より1年間とし、なくなり次第終了とさせていただきます。

(役員・編集委員 内海奈保子)

クリスマス礼拝



50年振りのクリスマス礼拝でした。在学中から、礼拝堂に入る時は気持ちの有り様が違っていたのです。この日はまずステンドグラスの青の輝きが全身を包み込んでくれたのです。(不思議な感覚でした)前奏が始まり、次第に心も静まり、田所先生の「平和の君」に考えさせられ、讃美歌、お祈り、献奏と続き、一瞬心の余分なものが取れてゆく気がしました。「衣錦尚綱」の精神に近づきたいと、未熟さを認めつつ年を重ねて行けたらとの思いがあるので、嬉しい体験でした。

同窓会行事への参加は、支部総会と今回の礼拝で二度目ですが、私にとって尚綱は思っている以上に大きな存在でした。大切にしたい方々との出会いがあり、感謝の輪を広げてゆけたらと思っております。

(S41年高校卒 野口サチ子)

仙南支部作成 クリスマスカード



毎年高年齢の方々へお送りするクリスマスカードは、仙南支部の皆様で作成していただいております。お送りしたカードは、心がこもっていて、可愛らしく、暖か味がありました。長年ご協力いただきありがとうございました。今年度で最後となり、支部の皆様には心より感謝申し上げます。来年度からは、同窓会本部で作成し発送していく予定です。

同窓会活動協力費について

尚綱誌2月号に専用振込み用紙が同封されます。金額は年額2,000円となります。ご協力の程よろしくお願致します。

お願い

会員の皆様の住所変更・改姓等があった場合、クラス会・同期会開催時に名簿を作成した場合は、情報を同窓会へお寄せくださいますよう、ご協力お願い申し上げます。個人情報については慎重に管理しております。

問合せ先(同窓会事務局)

- ◆ 月金/9時30分~15時30分
住所/〒980-0871
仙台市青葉区八幡1-9-27
- ◆ TEL/FAX/022-264-5830
- ◆ Eメール/oshoka@shokei.ac.jp

本部行事

総会	日程:2016年5月21日(土) 場所:江陽グランドホテル
八三会	日時:2016年8月3日(水) 場所:輪王寺(北山)内キリスト教堂地
クリスマス礼拝	日時:2016年11月26日(土) 場所:中高礼拝堂

2016年度支部総会

支部名	開催予定日	支部長
関西	6月18日	祖川 かつ子
山形	6月25日	佐藤 徳子
名取	7月2日	斎藤 幸子
岩沼	7月9日	鬼澤 洋美
塩釜	7月16日	遠藤 和子
岩手	7月23日	道小 百合子
北海道	9月3日	又野 泰子
亘理	9月17日	高橋 泰子
登米	9月24日	菅野 結子
大崎	10月1日	佐藤 了子
東海	10月22日	伊藤 八千穂
気仙沼	10月29日	野田 牧恵子
仙南	11月5日	西辺 静枝
石巻	11月12日	渡辺 静久
関東クリスマス	12月3日	